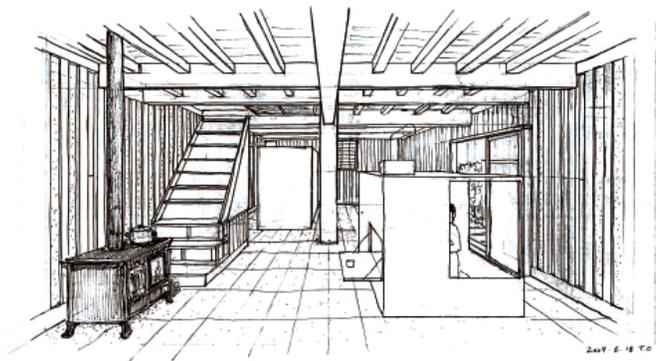


古民家スタイル

No.15

Contents 01

Cover Photo / Taro Makimura
Cover Design / Lina Sugimoto (WPP Design Section)



6 過去を未来につなぐ仕事人インタビュー

〇設計室 / 大沢 匠

24

古民家再生 つくり手からのメッセージ

- 01.山梨県『福々亭』
- 02.山梨県『K邸』
- 03.山梨県『柚口の民家』
- 04.京都府『林邸』
- 05.岡山県『里庄の家』
- 06.埼玉県『座間の古民家再生』
- 07.広島県『御調の家』
- 08.神奈川県『腰越の家』
- 09.長野県『塩入邸』
- 10.京都府『OMO』
- 11.京都府『紫竹西南町の住宅』



古民家スタイル

No.15 Contents 02



78 日本の原風景／写真集

生きている 茅葺き民家



113 癒しの食事処

- | | |
|--------------|---------------|
| 1.千葉県／茶房 宮崎邸 | 4.奈良県／田舎茶屋 千恵 |
| 2.京都府／志高カフェ | 5.東京都／きょうや |
| 3.神奈川県／甘酒茶屋 | 6.兵庫県／かぐや姫 |



142 古民家相談窓口

>>> 【連載コラム】

- 10 切り絵で描く古民家 文=久保 修
- 12 古民家を継承する模型の力 文=菅野清八
- 14 世界の古民家紀行 写真・文=長谷川和男
- 76 東京の伝統工芸巡り 文=井上雅史
- 92 鬼を巡る旅 写真=大東照男 文=岡田親彦
- 112 にっぽんの方言 文=真田信治





3



1

40年ぶりに生家に戻り 昔懐かしい生活を開始

建築設計 網野隆明
アルケドアテイス 0553-3317739

付

近には小川が流れ、少し高台となった見晴らしのいい場所に建つ「福々亭」。もとはご主人の生家だったが、県外で就職したため10年ほど前まで知人に貸していた。その後、5年ほど無人状態が続いたが、ご主人の退職を機に生家で暮らすことに。

再生を手掛けた建築家・網野隆明さんの初見によると、北側の崖から水が流れ込んで床下が湿っており、同じく北側の庭にはえた雑草と東側にある竹林の影響により建物が乾きにくく傷みつつあった。が、「昔の面影がある家で昔風の暮らしがしたい」との希望に沿うため、家の様相が一変してしまう構造の新規変更はせず、柱・土台・床板等傷みの激しい部分の取り替え、修繕を行って耐震性を高め、主な居室の断熱性能を向上させるという細やかな再生を行った。屋根裏に上げれば、茅葺きの貴重な光景が存在し、座敷の柱にはご主人が子供の頃につけた背比べの傷が残る。「40年ぶりに帰ってきましたね、やっぱり懐かしいですね」とご主人。「住みはじめてまだ2年なので、あと3年位すれば自分の住まいとしてなじんでくると思います」。

①銀色のトタン屋根がまぶしい「福々亭」。40年以上前に茅葺きをトタンで覆い、7〜8年に一度、保護用の塗装を施している。鬼瓦までトタンで加工された個性的な外観については「当時の職人技術の高さを感じますね」としみじみと話すご主人。「今ではこんなふうに着ける職人さんはいないかもしれないですね」。②犬走りには外部床用のシュタインアールという素材を使い、風情ある玄関に仕上げている。③玄関に入って左側にある囲炉裏の間。囲炉裏の炉縁は、敷地で育ったクリで制作。「電動ノコギリを使わず、人力で切り出したもの。よく見るとノコギリの歯跡が見えますよ」。

古民家DATA

- 家の年齢 200年
- 家のつくり 養蚕農家
- 家の広さ 敷[未計測] 延47坪
- 改修の形式 現地再生
- 家族構成 大人2人



2



3



1

古民家再生02 山梨県「K邸」

30代夫婦にフィットする蔵の居住空間

設計施工 伝匠舎株式会社石川工務所
055313212170



主人は農業をするため、建築士である奥様は古民家再生の設計業務に携わりたいとのこと。神奈川県、東京からそれぞれ山梨へ出向いて働いていた。今回の蔵再生に至ったのは、お二人が家族となって子供さんが生まれ、奥様のもとにある情報が舞い込んできたのがきっかけだった。「実は家を持つつもりはなかったのですが、蔵の再生を行う予定だった方が物件をキャンセルされたんです。規模の大きな古民家と違って、コンパクトな蔵なら家族3人が暮らすのにちょうどいい。コストも予算内に収めることができ、隣地にご主人の畑がもてれば都合もいい。さまざまな好条件が重なった。」

ご夫婦の希望は「現代住宅のような快適な家、農作業の合間に休む土間、1階には大きなワンルーム、自然素材の使用」。設計を担当した株式会社石川工務所の松崎智美さんは、1間ピッチの梁が整然と並び、内部は無柱の空間であった蔵に対し、既存の大戸に合わせて同じ間口のサッシを採用し、1階ワンルームに掃き出し窓とその延長に濡れ縁を設置。最新の水廻り設備も備え、明るく健康的な現代住宅となった。

①既存の蔵は、間口7間、奥行き3間の総二階。外部大壁の土壁塗り建物にしては外部柱の傷みが少なく、コンディションは良好だったようだ。山梨県甲州市勝沼に建てたものを石川工務所が解体一時保管し、移築した。再生においては、建物のプロポーションをいかし、無理なく現代生活が送れる住宅へと甦らせた。②外壁の一部を杉板張り割竹押さえとして外観のアクセントに。「有機的な感じがして気に入っています」と奥様。③玄関を入ってすぐのスペースは大きな土間空間。畳敷きの小上がりは、ご主人が農作業から戻って休憩したり、昼食をとったりするのに便利。

古民家DATA

- 家の年齢 80年
- 家のつくり 蔵
- 家の広さ 敷280坪 延40坪
- 改修の形式 移築再生
- 家族構成 大人2人+子供1人



2

生きてる

茅葺きの民家

写真 横村太郎

日本人の原風景とも言っべき茅葺き民家の佇まい。急激な都市化や農村部の過疎化にともない、その姿は年々失われつつある。先人の精神や知恵がいったい詰まった日本の財産とも言っべき「茅葺き民家」。現存する茅葺き民家を訪れて、日本の暮らしの原点に触れてほしい。

Published by
WORLD PHOTO PRESS
 Publisher of Mono magazine,
 Combat Magazine, Knife Magazine,
 World Wristwatch,
 Figure Oh, Mode Optique, and
 World Mook series.

Editorial & Corporate Headquarters:
 3-39-2 Nakano, Nakano-ku,
 Tokyo 164-8551, JAPAN
 Tel : 03-5385-5662 Editorial
 Fax : 03-5385-5617 Editorial
 Tel : 03-5385-5701 Circulation
 Fax : 03-5385-5703 Circulation

Editor & Publisher
 Kesaharu Imai

Manager
 Satoru Otani

Editor
 Tadashi Kunihiro

Writer
 Miyuki Matsushima
 Ayako Yamamoto

Photo grapher
 Taro Makimura

Cover Design
 Lina Sugimoto(WPP Design Section)

Design
 Lina Sugimoto(WPP Design Section)

Advertising Director
 Kazuo Tsuboi

Production Director
 Shunsuke Ogawa

Circulation Manager
 Hiroshi Sasagawa

Print
 TOPPAN Printing Co., Ltd.

DTP
 Base

**Correspondent, Washington, D.C. Bureau
 (Pictorial Press International)**
 Norman T. Hatch
 Mikako Burks



ワールド・ムック574
古民家スタイル
 No.5
 定価1800円

柱と梁と壁と天井。ものを食べ、眠る場所。それから、冬の間の少しの暖。無駄なものはいらない。壊さない再生と住み継ぐ力をテーマにした古民家再生住宅を紹介。



ワールド・ムック536
古民家スタイル
 No.4
 定価1800円

思いと愛着のある家。そこには座敷、縁側、庭へとつながる安らぎの空間がある。現代の生活スタイルと守るべきものの共存した、懐かしくて新しい暮らしを提案。



ワールド・ムック514
古民家スタイル
 No.3
 定価1800円

座敷、障子、廊下、坪庭といった日本の家ならではの空間で快適な暮らしを追求した再生古民家を紹介。茶室から和の住宅パーツと古材まで、和の実力を隅々まで探求する。



ワールド・ムック445
古民家スタイル
 No.1
 定価1800円

古さを生かして「今」に住む。伝統的な家の良さや現代の暮らしの時間を融合させる。そこに家づくりと住み方の両方を楽しむ新しいスタイルが生まれる。



ワールド・ムック363
古民家再生
 No.6
 定価1800円

愛されてきた昔ながらの家。手間を惜しまぬ人がいて、技と知恵を持ち寄り人があれば家は何度でも新しい命を生きる。日本の家は、次に来る世代への贈り物。



ワールド・ムック704
古民家スタイル
 No.9
 定価1800円

古民家再生事例だけでなく古い民家の癒しの空間を満喫できる宿やカフェを特集している。古民家で暮らすことの素晴らしさを少しでも体験してほしい。



ワールド・ムック676
古民家スタイル
 No.8
 定価1800円

現代住宅をベースに古材の梁や建具、欄間などを再利用した空間づくりの住宅を特集。既存と古いものを混在させた、温故知新の住空間がここにある。



ワールド・ムック644
古民家スタイル
 No.7
 定価1800円

民家にはその地域の風土から生まれた特徴があり、建築家は地域の伝統を残そうと工夫を凝らす。古民家には、その土地で育まれた昔の暮らしも生きている。



ワールド・ムック598
古民家スタイル
 No.6
 定価1800円

先人たちの知恵と工夫が込められた古民家には、今の暮らしに必要な多くのヒントが隠されている。古民家再生住宅から学ぶ、今、これからの暮らし方。

ワールドムック
 好評発売中



ワールド・ムック839
古民家スタイル
 No.14
 定価1800円

古民家再生住宅はもちろん、空間に古材や古建具を組み入れた新築&リフォーム住宅を紹介。古材を使った食事処や古材パーツカタログなど、古民家ファン必見の企画が満載!



ワールド・ムック805
古民家スタイル
 No.13
 定価1800円

「古民家に住み継ぐ心と私たち」をテーマに「暮らし」、「建てる人」の生の声を収録。実際に再生に関わった人たちからのコメントは大いに参考になるだろう。



ワールド・ムック788
古民家スタイル
 No.12
 定価1800円

全国の古民家再生住宅の紹介のほか、マンションで古民家を味わう実例を特集。厳選された古民家の食事処、古民家に出会える場所など、すぐにも赴きたくなる情報も満載。



ワールド・ムック760
古民家スタイル
 No.11
 定価1800円

伝統構法によって蘇った再生民家や古民家風にして建てられた現代の民家を紹介。建具に欄間、民具などの古材パーツを集めた厳選カタログや古民家のカフェ特集も収録。



ワールド・ムック734
古民家スタイル
 No.10
 定価1800円

失われてゆく日本の茅葺の古民家と、癒しの山村風景を大特集。また再利用すべき、細部まで職人の技術が集約された秀逸の建具、欄間など購入可能な一点モノも数多く紹介!

「古民家スタイル No.2」は売り切れです。

WORLD M O O K ワールド・ムック876
 平成23年8月5日発行(通巻876号)

建築家の知恵と職人の技が織りなす温故知新の家づくり。

古民家スタイル

No.15

ワールドフォトプレスのホームページ
<http://www.monomagazine.com>

編集・発行人 ● 今井今朝春
 発行所 ● 株式会社ワールドフォトプレス
 〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2
 編集部 ● TEL: 03(5385)5662 FAX: 03(5385)5617
 広告営業部 ● TEL: 03(5385)1350 FAX: 03(5385)1348
 販売部 ● TEL: 03(5385)5701 FAX: 03(5385)5703
 印刷所 ● 凸版印刷株式会社
 ©WORLD PHOTO PRESS 2011(禁・無断転載)

本誌に掲載されているデータおよび価格は2011年4月1日現在のものです。また表示価格はすべて税込みとなっております。造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がございましたら販売部までにお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。本誌掲載記事の無断複製転写を禁じます。バックナンバーのお申し込みはインターネットをご利用いただけます。
<http://www.monomagazine.com/>